

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 10 月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100272		
法人名	社会福祉法人 可部大文字会		
事業所名	グループホームHanamizuki		
所在地	〒731-0223 広島市安佐北区可部南3丁目10-22 (電話) 082-815-2199		
自己評価作成日	令和6年9月4日	評価結果市町受理日	令和6年12月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100272-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年10月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

お一人おひとりが、自分らしく生活できるよう寄り添って支援し、「居場所」となる環境づくりに取り組んでいる。また、ご利用者様がいろんな悩み事や困りごとを気軽に職員に言えるような雰囲気づくりにも取り組んでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体である社会福祉法人と地域のつながりは深く、法人が主催する行事の装飾や準備に利用者、職員が関わり参加している。同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護支援事業所と協働し、運営推進会議の参加者から地域の情報を得て、利用者が日常的に行事へ参加する機会に繋がり、地域と事業所が相互に交流している。利用者の食事や、排泄をチェック表で記録、観察し、評価を行うことで次の介護計画に有益な情報として役立て、利用者が日々健やかで快適に暮らせるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目（ 1階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念である、「山まゆ糸」のような光輝く最高の人生を送られることを、心から願って。に沿った考え方で管理者、職員共に利用者様と向き合っている。	法人理念をもとに、事業所の方針を定め、年2回実施している個人面談において、法人が職員に求めることを伝え、職員は個人目標を設定し、目標達成に向けて取り組むことで理念の実践につながる道筋を作っている。特定技能実習生が在籍しており、管理者は伝え方を工夫するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナも5類になってきたことを受け、徐々に地域の行事やイベントも再開されるようになり、可能な限りお誘いいただいた行事やイベントには参加し、地域との交流は持っている。	法人が主催する行事の準備や片付けを職員が担い、利用者は飾りつけの作成や行事参加により地域と交流している。地域の幼稚園とは長く付き合いがあり、園児からは歌を贈られ、利用者からもお礼のプレゼントを渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方から要望があれば、地域の集会所や公民館等に出向き、小規模の勉強会に講師として参加して周知に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議等を通じ、地域の方から質問や相談を受け、助言している。	運営推進会議には地域と深くつながりがある方が複数参加し、その方達から得た情報により、地域のサロンや、公民館で行われる行事へ参加し、運営推進会議は、利用者が地域と繋がる架け橋となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町から発信された情報は常に最新の情報を入手するよう、努めている。	生活課担当者が利用者に面談のために訪問し、担当者は変わるが、生活や家族の様子を伝えている。保険者が安佐北区である利用者の要介護認定情報提供申請のために介護保険課の窓口を管理者が訪問している。研修の通知などはメールで行い、適宜受講している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月に一回は身体拘束防止の勉強会を開催し、施設法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束の現状報告を行っている。法人本部で年間研修計画を策定し、身体拘束に係る勉強会を開催し、具体例を提示し職員間で内省を行い、正しい知識を修得する機会を設けている。日々の業務では利用者の行動を抑制しないことを管理者が指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月に一回高齢者虐待防止の勉強会を開催し、施設法人全体で高齢者虐待について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	月に一回、本部において開催される勉強会に参加し、知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文書を用いて発信したり、必要に応じて利用者およびその家族から個別に相談を受けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者及びその家族からアンケート等を取り、意見を頂戴している。また、必要に応じて、個別に相談を受けている。	利用者の意見は、日々の暮らしの中で職員が聴取し、家族意見は、職員が利用者の状態を報告する際に聞きとっている。面会制限緩和に関する要望が多く提起され、緩徐に制限を緩和しているが、家族が希望する面会が実現できるよう、法人に伝え、善処に向けて対応している。	

自己評価	外部評価	項 目 (1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニット会議やアンケート等を取ったり、必要に応じて個別面談を行い、職員の考えを把握する様に努めている。	管理者は、問題が発生していなくても、積極的に職員へ声をかけるように工夫することで、意見の聴取に努めている。職員意見は、管理者から法人の適切な部署に伝えられている。職員の意見から、利用者の日常生活動作に応じてより良い生活が送れるように業務改善の提案があり、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	アンケートや個別面談等を行い、職員の考えや気持ちを把握し、職員が向上心を持てるよう、努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	アンケートや個別面談等を行い、職員のスキルを把握し、法人内外の研修参加を促したり、法人内の委員会に参加させることで、職員一人ひとりのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修会や勉強会への参加を促し、同業者との交流機会の確保に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の事前面談を通して本人の思いや希望を探り、信頼関係の構築に向けた準備をしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の相談を受けた時点で不安や悩み、入居することによってどうなるのか、どうあってほしいかをすり合わせて、円滑で良好な関係を築くよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の時点で不安や悩み、入居することによってどうなるのか、どうあってほしいかをすり合わせて、円滑で良好な関係を築くよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員一人ひとりが利用者とコミュニケーションを密に取り、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族からの要望には耳を傾け、できることを行いながら、本人、家族とも円滑な関係を続けていけるよう、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの付き合いのある方との関係性を考慮し、家族以外の方との面会の機会を設けている。	家族や、友人の面会があり、家族の協力を得て、これまで通っていた馴染みある医師の診察を受けるために通院を続けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を職員間で把握し、トラブルのない、円満な関係を保てるよう、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の希望があれば、相談に乗る等のフォローをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にケア会議を開催し、問題点や改善点を導き出すよう、努めている。	利用者一人ひとりに担当職員が配置され、担当者を中心に利用者の意向を確認している。暮らし方の希望は利用相談などで、本人、家族から聞きとっている。意向の表出が困難な場合は、ケア会議開催の1週間前に職員へ意見照会を実施し、出席者と欠席者の照会意見を元に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や近親者等から情報を聞き出し、経過の把握に努め、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護経過や申し送り、ケア会議等を利用して、状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケア会議や家族を交えたサービス担当者会議等を利用し、意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映させている。コロナ禍においては、家族からは文書や電話にて意向を聞いている。	モニタリングは毎月実施し、担当職員を中心にケア会議を開催し、利用者の思いや課題解決などを介護計画に反映している。これまでの習慣を継続し、得意な家事の一部を実施し、暮らしの中で役割を持つ計画の作成と運用に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録をもとに、ケア会議やサービス担当者会議にて分かりやすく紐解き、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況は状態が変わる際、できることで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の望む暮らしや望むことを把握し、施設だけでなく、地域の協力が得られるよう、努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設のかかりつけ医とは些細なことでも相談し、利用者の健康状態の維持ができるよう、信頼関係の構築に努めている。	地域の医師や、馴染みのある診療所の医師の訪問診療、外来通院などから、利用者、家族が希望する医師の診察を受けることができる。必要に応じて病院で医師から家族に病状説明が行われる場合は看護師が同席し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目 (1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員と看護職員は常に協力し合い、介護上知り得た情報、看護上知り得た情報を共有し、利用者の健康状態の維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設からは介護情報を提供、医療機関からは退院時の看護サマリーの提供を受け、相互の情報交換を行い、医療機関との協力関係の構築に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人・家族と施設、医療機関とで方針と取り組みを確認し、安心した終末期が迎えられるよう、努めている。	利用者、家族からの利用相談時に事業所の看取りについての方針を説明し、申し込み時点で再確認後、同意を得ている。要介護状態の悪化や医療行為が必要になった場合は、経済的な負担の軽減や、医療職を配置する法人の他施設で終末期を迎えられるよう関係者間で協議している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会や研修等に参加し、知識や技術の習得に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回、避難訓練を行い、有事に備えている。また、運営推進会議を通じ、地域の住民の方にも参加を依頼している。	火災を想定した訓練を年2回、内1回は水害想定訓練を併せ、小規模多機能型居宅介護支援事業所と協働し、避難経路の確認も行っている。訓練には歩ける利用者数名と、運営推進会議の参加者4～6名が参加し、有事の際は地域住民に支援を依頼している。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇の勉強会を開催し、利用者に対する敬う気持ちや意識を持つよう、努めている。	法人本部が主催する入社式で接遇研修を実施し、毎年度、継続研修でも接遇に係る研修を行い、学び直しの機会を定期的に設けている。人格の尊重では、利用者を名字で呼ぶことを徹底し、プライバシーの確保では、居室、トイレの扉を閉めるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介助する際には利用者に対して必ず目的を説明し、理解や自己決定できるようなアプローチを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の行いたい時間をユニット間で把握し、できるだけ利用者の希望する形を実現できるよう、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	可能な限り、自身で身だしなみができるよう、最低限の介助にて支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り、配膳の準備や下膳を利用者と一緒に行えるような体制や環境づくりを行っている。	利用者は、自主的に食事の配下膳や、食器洗い、お盆拭きを行っている。管理栄養士が監修した献立を調理した物が届けられ、郷土料理や行事食、朝食にパンの日があり、バラエティ豊かである。おやつでは炊飯器でケーキを作り、利用者が飾り付けを行うなど、楽しめる工夫を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項 目 (1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	表を用いて、利用者が必要な量を確保できるよう、把握に努め、実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には口腔ケアを行い、必要に応じて介助するなどして、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限り、自己の力で排泄できるような支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼夜を通してトイレで排泄ができるように支援し、パットを交換せずに済むこともある。排泄でおむつやパットが汚れても、支援を受けながら交換することを繰り返すことで、動作の自立に繋がるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療機関とも相談し、可能な限り自身の力で排便できるような支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を楽しんでもらえるよう、希望を聞いたり、着替えの準備を職員と一緒にしている。	3階の浴室で景色を眺めて入浴ができる。炭酸系の入浴剤を使用し、入浴後に冷たい飲み物を提供している。浴室を使う順番に配慮し、利用者が嫌な思いをしないように工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	体調に応じ、日中でも午睡する 時間を設けたり、夜間も本人の 希望に合わせて遅い時間に就 寝してもいい環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	変化があった際はすぐに看護 師を通じて医療機関に報告し、 対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	本人の希望や家族や近親者か らの情報提供を受け、楽しみ のある生活を送っていただけ るよう、支援している。場合 によっては家族や近親者から の協力を得ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるよう支援し ている。	外の空気を感じられるような 支援は普段から行っている。 遠出に関しては、計画を立て、 年に数回、行っているが、遠 出に関しては、コロナ禍によ り、制限にある中で行ってい る。	500m先の幼稚園まで歩き、 散歩をしたり、敷地内のベン チに座り、歩く人や行き交う 車を眺め外気浴や外出を行っ ている。法人のリフト車で車 椅子を使用している利用者も ドライブや、桜の花見、紅葉 狩りに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	家族から預り金を預かり、対 応している。コロナ禍におい て、本人からの希望を聞き、 職員が代行に必要なものや希 望したものを買に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	動線に危険なものを置かないよう気をつけ、共用スペースが殺風景にならないよう、配慮している。	季節毎に利用者と職員が協働して壁画を作成し、飾っている。寒がる利用者が多いため、室温を下げすぎないように気をつけている。利用者は明る過ぎると眩しく感じる場合があるため、照度を下げて過ごしやすく調整している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	トラブルにならないよう、良好なコミュニティが保てるよう、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族の希望や意向を反映した居室づくりを行っている。また、希望に応じて、午睡したり、居室で過ごせるよう、支援している。	居室には、孫の結婚式の写真や、両親の写真、置き時計や、夫の遺影など、好みや馴染みがあるものを配置している。居室の扉には大きめのガラスがはめこんであり、プライバシーの確保と、明るさの調整のため、ポスターなどで覆っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ等はわかりやすいように示し、洗面台も一人ひとりが使いやすいように歯ブラシセット等が手の届きやすいところに置くなど、配慮している。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 2階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念である、「山まゆ糸」のような光輝く最高の人生を送られることを、心から願って。に沿った考え方で管理者、職員共に利用者様と向き合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナも5類になってきたことを受け、徐々に地域の行事やイベントも再開されるようになり、可能な限りお竿いただいた行事やイベントには参加し、地域との交流は持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方から要望があれば、地域の集会所や公民館等に出向き、小規模の勉強会に講師として参加して周知に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議等を通じ、地域の方から質問や相談を受け、助言している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町から発信された情報は常に最新の情報を入手するよう、努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	月に一回は身体拘束防止の勉強会を開催し、施設法人全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	月に一回高齢者虐待防止の勉強会を開催し、施設法人全体で高齢者虐待について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	月に一回、本部において開催される勉強会に参加し、知識を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	文書を用いて発信したり、必要に応じて利用者およびその家族から個別に相談を受けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者及びその家族からアンケート等を取り、意見を頂戴している。また、必要に応じて、個別に相談を受けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニット会議やアンケート等を取ったり、必要に応じて個別面談を行い、職員の考えを把握する様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	アンケートや個別面談等を行い、職員の考えや気持ちを把握し、職員が向上心を持てるよう、努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	アンケートや個別面談等を行い、職員のスキルを把握し、法人内外の研修参加を促したり、法人内の委員会に参加させることで、職員一人ひとりのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修会や勉強会への参加を促し、同業者との交流機会の確保に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の事前面談を通して本人の思いや希望を探り、信頼関係の構築に向けた準備をしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の相談を受けた時点で不安や悩み、入居することによってどうなるのか、どうあってほしいかをすり合わせて、円滑で良好な関係を築くよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前する時点で不安や悩み、入居することによってどうなるのか、どうあってほしいかをすり合わせて、円滑で良好な関係を築くよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員一人一人が利用者とコミュニケーションを密に取り、信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族からの要望には耳を傾け、できることを行いながら、本人、家族とも円滑な関係を続けていけるよう、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの付き合いのある方との関係性を考慮し、家族以外の方との面会の機会を設けている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を職員間で把握し、トラブルのない、円満な関係を保てるよう、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の希望があれば、相談に乗る等のフォローをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にケア会議を開催し、問題点や改善点を導き出すよう、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や近親者等から情報を聞き出し、経過の把握に努め、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護経過や申し送り、ケア会議等を利用して、状態の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2 階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケア会議や家族を交えたサービス担当者会議等を利用し、意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映させている。コロナ禍においては、家族からは文書や電話にて意向を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録をもとに、ケア会議やサービス担当者会議にて分かりやすく紐解き、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況は状態が変わる際、できることで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人の望む暮らしや望むことを把握し、施設だけでなく、地域の協力が得られるよう、努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設のかかりつけ医とは些細なことでも相談し、利用者の健康状態の維持ができるよう、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員と看護職員は常に協力し合い、介護上知り得た情報、看護上知り得た情報を共有し、利用者の健康状態の維持に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設からは介護情報を提供、医療機関からは退院時の看護サマリーの提供を受け、相互の情報交換を行い、医療機関との協力関係の構築に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人・家族と施設、医療機関とで方針と取り組みを確認し、安心した終末期が迎えられるよう、努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	勉強会や研修等に参加し、知識や技術の習得に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に二回、避難訓練を行い、有事に備えている。また、運営推進会議を通じ、地域の住民の方にも参加を依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目（ 2階 ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇の勉強会を開催し、利用者に対する敬う気持ちや意識を持つよう、努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介助する際には利用者に対して必ず目的を説明し、理解や自己決定できるようなアプローチを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の行いたい時間をユニット間で把握し、できるだけ利用者の希望する形を実現できるよう、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	可能な限り、自身で身だしなみができるよう、最低限の介助にて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り、配膳の準備や下膳を利用者と一緒に行えるような体制や環境づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	表を用いて、利用者が必要な量を確保できるよう、把握に努め、実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には口腔ケアを行い、必要に応じて介助するなどして、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限り、自己の力で排泄できるような支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	医療機関とも相談し、可能な限り自身の力で排便できるような支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴を楽しんでもらえるよう、希望を聞いたり、着替えの準備を職員と一緒にしている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	体調に応じ、日中でも午睡する 時間を設けたり、夜間も本人の 希望に合わせて遅い時間に就 寝してもいい環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	変化があった際はすぐに看護 師を通じて医療機関に報告し、 対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、 嗜好品、楽しみごと、気分転 換等の支援をしている。	本人の希望や家族や近親者か らの情報提供を受け、楽しみ のある生活を送っていただけ るよう、支援している。場合 によっては家族や近親者から の協力を得ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支援 している。	外の空気を感じられるような 支援は普段から行っているが、 遠出に関しては、計画を立て、 年に数回、行っているが、遠 出に関しては、コロナ禍によ り、制限にある中で行ってい る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	家族から預り金を預かり、対 応している。コロナ禍におい て、本人からの希望を聞き、 職員が代行に必要なものや 希望したものを買いに行っ ている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	動線に危険なものを置かないよう気をつけ、共用スペースが殺風景にならないよう、配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	トラブルにならないよう、良好なコミュニティが保てるよう、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族の希望や意向を反映した居室づくりを行っている。また、希望に応じて、午睡したり、居室で過ごせるよう、支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ等はわかりやすいように示し、洗面台も一人ひとりが使いやすいように歯ブラシセット等が手の届きやすいところに置くなど、配慮している。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームHanamizuki

作成日 令和6年11月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	施設の職員体制が過渡期にあり、実践したいことが不完全である。	法人理念に沿って事業所理念を作り、事業所全体で実践していく。	新規職員が入職しても実践できるよう、分かりやすい支援や業務について考え、取り組んでいく。	令和7年度中
2	2	コロナは5類になり、制限は緩和されてきているが、まだ感染症の地域的な蔓延が発生することもあり、コロナ前と同じような活動を行えていない。	事業所と地域の関係性を密にする。	地域と密に連携を取り、地域行事への協力及び参加は可能な限り行っていく。	令和7年度中
3	5	誤った認識の職員がいる可能性があるため、通年を通じて指導や施設内研修を行う必要がある。	身体拘束をしないケアの実践と、虐待防止の徹底。	法人内に設置された、身体拘束適正化委員会、高齢者虐待防止委員会に参加し、正しい対応の仕方や最新の情報を現場で共有する。	令和7年度中
4	12	看護師による指導を受け、事故後の対応等を学んでいるが、すべての職員が身につけているとは言えない。	急変時や事故発生時の備えと対応。	実地による指導だけではなく、看護師に講師になってもらい、勉強会も行い、根拠に基づいた対応ができるように取り組む。	令和7年度中
5	13	様々な災害があるため、主に火災と水害の訓練をしているが、地震等の訓練も重なる必要がある。	災害対策。	ハザードマップやその他、必要な情報を入手し、訓練に取り入れていく。また、運営推進会議等を通じ、地域住民の方にも参加して頂き、地域全体での訓練実現を目指す。	令和7年度中
6	14	職員の中には自分の都合や価値観を押し付けようとする者がいる。	その人らしい暮らしの支援。	職員の価値観や都合を押し付けず、可能な限りその方の意向にそった対応をしていく。	令和7年度中
7	17	一人一人の状態やできること、できないことを把握しないで、均一したケアを行う者がいる。	その人に合わせた支援。	一人一人の強みを見つけ、やりたいことや役割を持っていたけるよう、支援していく。	令和7年度中

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。